

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	○理念の共有と実践 開設して5年目を迎えるが、スタッフの入れかありがあつたり、長く働いている人でも馴れ合いでケアしている場面があり、全スタッフが共通の理念の下でケアするまでには至っていない現状。	施設の理念をみんなでよくかみ砕き、清流の介護理念を作り上げる。それと同時に個人の理念も考え、日々のケアの振り返りをする。	カンファレンスを利用し5・6月中に介護理念を作る。介護理念は目につくところに掲示しスタッフの石靴毛を図る。また、個人の介護理念も作り、日々のケアの振り返りに役立てる。1週間に一度はケアの振り返り発表の時間を設け、自分の良かった点・悪かった点を伝える機会を作る。	12ヶ月
2	33	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化や終末期における指針を家族に説明し事前指示書を作成しその時に対応できるようにしているが、十分な体制確立までには至っていない。	家族・訪問看護と連携し、看取り体制を確立し、慣れ親しんだホームで最期の時を迎えられるよう支援する。	家族さんには病院受診の付き添いや関わり等を通じ、現在の病状などを伝え、ご利用者様の状態を理解していただく。また、訪問看護とも連携し、ご利用者様の病気・状態・くすの知識や看取りの段階に必要なケアについてなども毎月研修し対応していく。	12ヶ月
3	35	○災害対策 火災想定と地震想定と地震想定は実施しているが、十分なものとはいえず、今後は様々な状況を想定しての訓練が必要。	これまでと同様に火災・地震想定と地震想定を続け、さらにいざという時に自分で考え判断できるよう、研修を通してスタッフ一人ひとりの対応力を強化する。	5・6・7月中にあらゆる災害を想定したマニュアルを完成し、職員に熟読してもらう。また、毎月のカンファレンスを利用し、イメージトレーニングでいざという時の対応を話し合い、色々な場面を想定しておく。研修会にも積極的に参加し、知り得た知識は他のスタッフにも伝達し広める。	12ヶ月
4	6	○身体拘束をしないケアの実践 研修等に参加し身体拘束について認識しているつもりだが、利用者様との付き合いが長くなるにつれ馴れ合いの関係から、言葉が強くなったりスピーチロックにあたるような場面が時々見受けられる。	高齢者虐待や権利擁護についての研修を続け、知識を深める。さらに自分のケアの振り返りをすると同時に他のスタッフのケアや対応等についても声をかけあえるようになる。	権利擁護や高齢者虐待の研修には積極的に参加する。また、日々のケアで必ず振り返りの時間を設け、自分のケア・他のスタッフのケアについて良かったこと・気を付けたほうが良いことと感じたことをノートに書き残し気づきを増やしていく。また、ご家族も自由に書いたり読んだりできるようにしておく。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。